

科目番号	科目名	琉球・沖縄文化特論		担当教員：波照間 永吉	
博国地 003	科目名 (英語)	Special Lectures on Ryukyuan and Okinawan Cultures		E-mail: e.hateruma@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	227	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
<p>琉球語を母語とする奄美・沖縄・宮古・八重山地域は“琉球文化圏”と呼ばれ、歴史的に、日本や中国、東南アジアなど周辺諸国との交流によって、個性的な文化を育んできた。例えば、この地域には、ニライカナイ（海の彼方の万物の淵源の地）という海上世界の観念があるが、同時に、オボツカグラなどの天上世界観もある。さらには地下世界観を有する地域もあり、現実的にはこれらが重層しているといえる。これらの世界観を元に御嶽信仰と呼ばれる固有信仰が発達しているわけであるが、これらの世界観と固有信仰・民俗文化がどのように展開しているかを見定めることは、琉球・沖縄文化と日本および周辺地域の文化との比較研究のために不可欠なことである。本講座では、これら琉球文化圏で創造・享受されてきた文学（首里王府編『おもろさうし』〈1531～1623〉など）を素材として、この地域の人々が有する世界観・神観念などの民俗文化と想念世界について考えていく。</p>					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・講義で使用する『おもろさうし』や『琉球国由来記』、「(琉球国) 碑文記」など、琉球国時代の文献・金石文資料を読むことをとおして、古琉球以来の沖縄文化の基層にある問題について考える力を養う。 ・祭祀を実際に見学する機会を積極的にもち、琉球・沖縄の祭祀文化の基本的な構造や特徴を理解するとともに、その社会的意味についても考える力をつける。 					
3. 授業の計画と内容					
<p>第1週 講義の進め方、学習方法について説明。本講座に使う資料について説明する。</p> <p>第2週 琉球・沖縄における祭祀と文芸（琉球文化圏の固有信仰に、特に、御嶽、神女組織などについて概説する）。</p> <p>第3週 『おもろさうし』概説</p> <p>第4週 オモロ解読法について①</p> <p>第5週 オモロ解読法について②</p> <p>第6週 『おもろさうし』に現れた固有信仰①(御嶽)</p> <p>第7週 『おもろさうし』に現れた固有信仰② (神)</p> <p>第8週 『おもろさうし』に現れた固有信仰③ (他界観)</p> <p>第9週 『おもろさうし』に現れた固有信仰④ (ヲナリ神・女神)</p> <p>第10週 『おもろさうし』に現れた固有信仰⑤ (ヲナリ神・女神)</p> <p>第11週 『おもろさうし』に現れた固有信仰⑥ (王府の神女組織)</p> <p>第12週 『おもろさうし』の憑霊表現①</p> <p>第13週 『おもろさうし』の中の憑霊表現②</p> <p>第14週 碑文とオモロからみる古琉球の王府祭儀</p> <p>第15週 『おもろさうし』や碑文などからみる古琉球の宗教的世界</p>					
4. テキスト					
<p>【テキスト】</p> <p>外間守善『校注おもろさうし』（2000年・岩波書店）</p> <p>【参考文献】</p> <p>外間守善・波照間永吉『定本おもろさうし』（2002年・角川書店）、外間守善・波照間永吉『定本琉球国由来記』（1997年・角川書店）、外間守善『沖縄の神歌』（1994年・中公文庫）、比嘉康雄『神々の古層』（写真集・全12巻）（1990年～1994年・ニライ社）、比嘉康雄『沖縄 久高島』（1997年・第一書房）、沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』（1995年・角川書店）、外間守善他『南島歌謡大成 I～V』（1980年・角川書店）、玉城政美『南島歌謡論』（1991年・砂子屋書房）、外間守善『南島文学論』（1994年・角川書店）、波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』（1999年・砂子屋書房）、玉城政美『琉球歌謡論』（2010年・砂子屋書房）</p>					

5. 準備学習
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。特に講師（波照間永吉）の既発表論文などによって事前の学習をすること。地域における伝統的祭祀について可能な限り実地に観察する。
6. 成績評価の方法
講義時間における知識習得のレベルおよび期末のレポートで総合的に判断する。講義への取り組み（報告、討論等）など平常の受講態度についても評価する。
7. 履修の条件
特になし。但し、テキストの準備は万全であること。また、事前学習を十全に行うこと。
8. その他
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。

科目番号	科目名	琉球文学特論		担当教員：照屋 理	
博国地 004	科目名 (英語)	Special Lectures on Ryukyuan Literature		E-mail: m.teruya@meioru.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	508	火・木1限
1. 授業の概要					
<p>琉球とは、かつて琉球国があった時代とその地域、琉球文学とは、基本的に琉球国時代に琉球国内で生まれ、育まれた文学を意味する。具体的に挙げると、オモロ (『おもろさうし』) に代表される呪術文学、奄美・沖縄・宮古・八重山地域で歌い継がれている古謡や琉歌に代表される叙事・抒情文学、そして組踊に代表される劇文学等である。</p> <p>本講では、それらの文学領域の中でも、特に『おもろさうし』以外の呪術文学 (奄美のタハブエ、ナガレ歌、沖縄のミセセル、オタカベ、宮古のカンプツ、タービ、八重山のカンプツ、ニガイフツ等) および叙事・抒情文学、そして劇文学に焦点を当てて追究する。なお、受講生には主体性を求める。</p>					
2. 到達目標					
<p>いわゆる琉球文化圏で生まれ育まれた口承・筆録文芸作品群について、解釈の手助けとして各種方言辞典や論考等を読みこなし、使いこなす力を身に着けること、および、逐語訳から更に踏み込んで鑑賞できる力を身に着けることを到達目標とする。</p>					
3. 授業の計画と内容					
<p>第1週 琉球文化圏における口承・筆録文芸概説 (南島祭祀と神歌文化)</p> <p>第2週 口承・筆録文芸研究方法論① (歌形論1)</p> <p>第3週 口承・筆録文芸研究方法論② (歌形論1)</p> <p>第4週 口承・筆録文芸研究方法論① (モチーフ論1)</p> <p>第5週 口承・筆録文芸研究方法論② (モチーフ論2)</p> <p>第6週 口承・筆録文芸研究方法論③ (歌唱法論1)</p> <p>第7週 口承・筆録文芸研究方法論④ (歌唱法論2)</p> <p>第8週 口承・筆録文芸研究方法論⑤ (表現論)</p> <p>第9週 研究各論 (受講生発表) ①</p> <p>第10週 研究各論 (受講生発表) ②</p> <p>第11週 研究各論 (受講生発表) ③</p> <p>第12週 研究各論 (受講生発表) ④</p> <p>第13週 研究各論 (受講生発表) ⑤</p> <p>第14週 研究各論 (受講生発表) ⑥</p> <p>第15週 研究各論 (受講生発表) ⑦</p> <p>第16週 研究各論 (受講生発表) ⑧&レポート提出</p>					
4. テキスト					
適宜指示する。					
5. 準備学習					
参考文献を事前に読むこと。					
6. 成績評価の方法					
<p>レポートと授業への取り組み (報告、討論等) によって評価する。</p> <p>レポート (50%)、授業への取り組み (50%)</p>					
7. 履修の条件					
<p>担当教員は特論科目を大学院博士課程において本格的な研究方法等を身につける科目と考えている。受講生には徹底的な事前学習・調査を求める。</p>					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	琉球歴史学特論		担当教員：屋良健一郎	
博国地 005	科目名 (英語)	Special Lectures on Ryukyu History		k.yara@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2	402	火4・木5
1. 授業の概要					
この講義では前近代の琉球の歴史を、史料を読み解きながら学んでいく。特に日本との外交や文化交流に関わる史料を読むことで、琉球と日本・薩摩との関係がどのような歴史をたどったのかを考察することとする。琉球の歴史を知る上で重要な薩摩の歴史についても積極的に扱う。					
2. 到達目標					
史料の読解を通して琉球と日本の関係史について理解を深める。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 ガイダンス 第2週 琉球と室町幕府 第3週 薩摩島津氏の歴史① 室町時代 第4週 薩摩島津氏の歴史② 戦国時代 第5週 16世紀の東アジア 第6週 琉球と薩摩① 室町時代 第7週 琉球と薩摩② 戦国時代 第8週 琉球と薩摩③ 豊臣政権期 第9週 島津氏の琉球侵攻 第10週 為朝の琉球渡来伝説 第11週 和文学から見た琉球と薩摩の交流 第12週 江戸立 第13週 漂着から見た近世の琉球と日本 第14週 近世琉球の日本文化受容 第15週 まとめ					
4. テキスト					
【テキスト】 特になし。プリントを配布する。 【参考文献】 講義の中で紹介する。					
5. 準備学習					
講義で紹介した論文や史料を読んでおくことが望ましい。					
6. 成績評価の方法					
授業での対応 (50点)、発表 (50点) で評価する。					
7. 履修の条件					
特になし。					
8. その他					
シラバスはクラスの状況、講義の進行状況によって変更することがありますので、あらかじめご理解ください。					

科目番号	科目名	南島民俗文化特論		担当教員：山里 純一	
博国地 006	科目名 (英語)	Special Lectures on Ethnic Cultures of Southern Islands		E-mail: j.yamazato@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	225	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
南島（奄美・沖縄）の民俗文化について、まじない、星と風、信仰習俗などを主たるテーマとして取り上げる。特有の精神風土に根ざしたまじない習俗について、文献史料の発掘とフィールドワークの成果を活かし、中国・日本との比較も視野に入れながら考察する。また南島の地理的環境がもたらす天文・自然と人々の暮らしについて、さらに中国・日本などの外来文化が受容され独自の展開を見せる民俗文化についても見ていく。					
2. 到達目標					
日本本土と違った南島社会の民俗文化の有り様について知識を深める。 固有の文化と外来文化が織りなす南島の民俗文化について理解する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 オリエンテーション - 南島の民俗文化 -					
第2週 呪文と呪歌					
第3週 呪物と様態					
第4週 文字の呪力と呪符木簡					
第5週 沖縄のフーフダ（符札）① 種類と機能					
第6週 沖縄のフーフダ② 起源と変容					
第7週 まじないと民俗① 人生儀礼をめぐるまじない					
第8週 まじないと民俗② 建築儀礼とまじない					
第9週 まじないと民俗③ 自然とまじない					
第10週 星と人々の暮らし① 北斗信仰					
第11週 星と人々の暮らし② 農業と星					
第12週 風の用語と伝承					
第13週 天文知識と風の関係					
第14週 外来の神々と信仰習俗					
第15週 沖縄の習俗と説話					
4. テキスト					
参考文献：山里純一『沖縄のまじない』（ポードーインク、2017）、山里純一『呪符の文化史 - 習俗に見る沖縄の精神文化』（三弥井書店、2004）、山里純一「沖縄における星の信仰」『沖縄民俗研究』34号、窪徳忠『中国文化と南島』（第一書房、1981）、窪徳忠『目でみる沖縄の民俗とそのルーツ』（沖縄出版、1990）、花部英雄『まじないの文化誌』（三弥井書店、2014）					
5. 準備学習					
参考文献に目を通しておく。					
6. 成績評価の方法					
レポートと授業への取り組み（報告、討論等）によって評価する。 レポート（70%） 授業への取り組み（30%）					
7. 履修の条件					
なし					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	日本古典文学特論		担当教員：小番 達	
博国地 007	科目名 (英語)	Special Lectures on Classical Japanese literature		Mail:t.kotsugai@meioru.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	研 504	火曜日・木曜日 4限
1. 授業の概要					
<p>本講義では『平家物語』の成立をめぐる問題を考える。作品の成立を考えるには、いわゆる 5W1H の各要素が対象となるが、ここでは異本本文の創作・編集動機 (なぜ)、そして成立過程 (どのように) の要素を基軸に考えていく。『平家物語』をはじめとする軍記文学にあつては、歴大な異本 (諸本) を有することがその特徴の一つになっている。それらの異本を総体的に捉えることは難しいため、一異本をキーテキストとして考察対象に定め、そのテキストをめぐって、先行する『平家物語』の他の異本本文や他の軍記文学本文、さらに外部文献——先行する文学作品、歴史資料 (記録・史書等)、思想関連資料 (経典・寺社縁起等) 等々——の直接的あるいは間接的な受容の様態を具体的に解き明かしていく。</p>					
2. 到達目標					
<p>『平家物語』の異本本文の成立過程をめぐる考察には、自ずと中世社会の歴史的、思想的、文化的状況の把握、そして『平家物語』の文学としての状況の様相と変容の把握が要請される。こうした中世という時代性と平家物語のもつ文学性についての理解を深める。</p>					
3. 授業の計画と内容					
<p>第1週 ガイダンス (講義の進め方と受講上の留意点、研究倫理等) 第2週 『平家物語』の成立をめぐる研究史概観 (1) —1970 年代以前 第3週 『平家物語』の成立をめぐる研究史概観 (2) —1970~90 年代 第4週 『平家物語』の成立をめぐる研究史概観 (3) —2000 年代~現在 第5週 屋代本の成立について 第6週 覚一本の成立について (1) 第7週 覚一本の成立について (2) 第8週 四部合戦状本の成立について 第9週 源平闘諍録の成立について 第10週 長門本の成立について 第11週 源平盛衰記の成立について 第12週 延慶本の成立について (1) 第13週 延慶本の成立について (2) 第14週 延慶本の成立について (3) 第15週 総括</p>					
4. テキスト					
<p>【テキスト】プリントで配付する。 【参考文献】授業の中で適宜紹介する。</p>					
5. 準備学習					
事前に関連文献・資料を読んでくること。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み (40 点) ・期末レポート (60 点)					
7. 履修の条件					
特になし					
8. その他					
特になし					

科目番号	科目名	日本近代文学特論		担当教員： 小嶋 洋輔	
博国地 008	科目名 (英語)	Special Lectures on Modern Japanese Literature		y.kojima@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	5	研究棟 415	月 3・火 3
1. 授業の概要					
日本近現代文学研究に関連する、近接分野の成果を輪読する。そうした近接分野の文学に関する理論を学ぶことは、現代において文学理論を学ぶより、効果的な側面がある。扱うテキストは文学を社会学した、乃至は社会学を文学したとも言える P・ブルデュー『ディスタンクシオン』、『芸術の規則』となる。どちらを中心に置くかは受講者との話し合いによる。					
2. 到達目標					
①日本近現代文学研究がどのように広がり得るか、それをブルデューの著作から迫る。 ②最終的にブルデューの理論を用い、どのように日本近代の状況を論じることができるかを試みる。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 ガイダンス					
第2週 「近代」の「文学」ということ					
第3週 ブルデューとは誰か					
第4週 ブルデュー解説本から①					
第5週 ブルデュー解説本から②					
第6週 『ディスタンクシオン』 or 『芸術の規則』 ①					
第7週 『ディスタンクシオン』 or 『芸術の規則』 ②					
第8週 『ディスタンクシオン』 or 『芸術の規則』 ③					
第9週 『ディスタンクシオン』 or 『芸術の規則』 ④					
第10週 『ディスタンクシオン』 or 『芸術の規則』 ⑤					
第11週 『ディスタンクシオン』 or 『芸術の規則』 はどのように「文学研究」されてきたか①					
第12週 『ディスタンクシオン』 or 『芸術の規則』 はどのように「文学研究」されてきたか②					
第13週 『ディスタンクシオン』 or 『芸術の規則』 はどのように「文学研究」されてきたか③					
第14週 『ディスタンクシオン』 or 『芸術の規則』 はどのように「文学研究」されてきたか④ ※以上の講義は、テキストを講師が解説する講義形式のものである。					
第15週 まとめ 自らの学問分野でブルデューはどのように活用できるか					
4. テキスト					
【テキスト】 指導教員が準備する。					
【参考文献】 『ディスタンクシオン—社会的判断力批判 (1・2)』(藤原書店、1990年、新版2020年) 『芸術の規則 (1・2)』(藤原書店、1995-1996年) ジゼル・サピロ 『文学社会学とは何か』(世界思想社、2017)					
5. 準備学習					
必ずテキストを読んてくること。					
6. 成績評価の方法					
例) 授業での対応 (20点)、ブルデューについてのまとめレポート(30点)、期末まとめ (50点) で評価する。					
7. 履修の条件					
とくになし					
8. その他					
とくになし					

科目番号	科目名	中国琉球関係史特論		担当教員：赤嶺 守	
博国地 009	科目名 (英語)	Special Lectures on the History of Sino-Ryukyu Relations		E-mail: m.akamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	226	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
琉球・沖縄の歴史的なターニングポイントは、同時に東アジア社会全体の構造的変動というターニングポイントに重なっている。授業では、そうした東アジア社会の一員としての琉球・沖縄社会における歴史的諸相を詳しく考察する。					
2. 到達目標					
東アジアにおけるコーナーストーンとしての琉球・沖縄の歴史的な位置づけについて理解を深める。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 Introduction : 中国琉球関係史研究序論					
第2週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第3週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第4週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第5週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第6週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第7週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第8週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第9週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第10週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第11週 期末研究論文テーマの設定及び学術意義・独創性の検討					
第12週 期末研究論文テーマの理論構築・展開のプロパーザル・指導					
第13週 期末研究論文テーマの理論構築・展開のプロパーザル・指導					
第14週 期末研究論文テーマの理論構築・展開のプロパーザル・指導					
第15週 期末研究論文の最終討論					
4. テキスト					
参考文献：内容が多岐にわたるので、担当教員が授業の前に必要な文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
紹介された授業に関わる文献を受講前に一通り目を通しておくこと。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み（報告、討論等）によって評価する。					
7. 履修の条件					
基礎一次史料については、多くが漢文史料であることから、それを読み込む一定の読解力を有すること。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	class	アメリカ近代文学特論			担当教員 : Meghan Kuckelman Beverage E-mail: m.kuckelman@meio-u.ac.jp	
博国地 011	科目名 (英語)	Special Lectures on 20 th Century American Literature				
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	学部棟	研究室	オフィスアワー
					404	Tu 1 Tu 4

Class content

This course will focus broadly on 20th Century American Modernism, defined very loosely as 1910-1945. Poetry and fiction will be considered alongside theoretical texts from both the early and later century. In addition to the “high” Modernist writing of Eliot, Williams, and Pound, special attention will be paid to the Harlem Renaissance and the avant-garde texts of Gertrude Stein and Djuna Barnes. The value of reading, studying, and teaching such texts will also be considered throughout, through the lens of Martha Nussbaum’s “The Narrative Imagination.”

Class objectives

- Students will be able to identify and explain the major themes of early 20th century literature.
- Students will be able to articulate connections between form, language, and content across multiple genres.
- Students will be able to incorporate literary theory into their understanding of the literary text work and present that understanding in both spoken and written form.

Class schedule

Class 1: Introductions

Class 2-3: Martha C. Nussbaum, from *Cultivating Humanity*, Ch. 3: “The Narrative Imagination”

Class 4-5: 1922-1923— T.S. Eliot, “Tradition and the Individual Talent” and “The Love Song of J. Alfred Prufrock”; Ezra Pound, *Cantos* 1 and 45; Williams, from *Spring and All*

Class 6-7: The Harlem Renaissance—Alain Locke, “The New Negro”; Langston Hughes, “The Negro Speaks of Rivers,” “Negro,” and “The Colored Soldier”; Claude McKay, “If We Must Die” and “America”; Angelina Weld Grimke, “The Black Finger” and “Tenebris”

Class 8-9: WEB DuBois, “Of the Training of Black Men”; Ralph Ellison, “Battle Royal”

Class 10-11: Susan Bordo, “The Body and the Reproduction of Femininity”; Djuna Barnes, “How It Feels to Be Forcibly Fed”

Class 12: John Steinbeck, “The Chrysanthemums”

Class 13-14: Gertrude Stein, *Tender Buttons*; “Composition as Explanation; “Miss Furr and Miss Skeene”

Class 15: Writing Conferences

Class 16: Conclusions

Textbook

Texts will be photocopied by the instructor.

Assessment

Participation 30 points

- Students will be expected to offer comments and interpretations of the text; ask questions about literary features, context, and language; and to propose topics and themes for each day’s discussion

Conference Style Presentation 30 points

- Students will each give a 15-minute presentation about any texts from Class 4-14. The presentation should use the major themes and arguments of the theoretical texts to provide an interpretation of the literary texts.

Conference Paper 40 points

- Students will revise the presentation, using the ensuing discussion and comments, into a 2000-word Paper. The paper may include additional secondary research.

Total: 100 points

Note

- This course will be conducted entirely in English, including all reading, writing, and discussion.
- Students who take this course should already be comfortable with written and spoken English communication.

科目番号	科目名	中南米地域文化特論		担当教員：住江 淳司	
博国地 012	科目名 (英語)	Special Lectures on Latin American Culture and Area Studies		E-mail:j.sumie@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	224	火：10:30-12:00 金：13:00-14:30
1. 授業の概要					
<p>中南米地域（特にブラジル）の歴史と文化について、社会史の観点から考察を深化させる。加えて資料の博捜方法について説明する。</p> <p>また、本講義では、異文化接触による現象である文化変容が、一つの文化の内部で起こる文化の変化であるのに対して、文化触変は外来の文化要素が受容されたときに起こる文化の変化であることに注目する。</p>					
2. 到達目標					
授業の内容に関する質疑応答に応じられたか、又は指摘された問題点について、克服する努力を行ったかを到達目標とする。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 社会史の課題と方法 第2週 歴史的思考とその位相 第3週 社会史における集合心性 第4週 「一味神水」と日常態 第5週 歴史人口学 第6週 文化の新しい歴史学 第7週 資本主義の文化 第8週 文化触変とは 第9週 文化変容について 第10週 共生と共棲 第11週 国際文化論 第12週 拒絶と黙殺 第13週 置換について 第14週 同化統合と編入統合 第15週 融合統合と隔離統合					
4. テキスト					
参考文献： 周辺領域への目配りも怠らないように配慮して、進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
できるだけ多くの関連文献を読破し、当該分野の研究を整理して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
授業中の討議への参加とその取り組み状況（報告、討論等）（40%） 授業中の発表会の完成度（60%）					
7. 履修の条件					
中南米地域の地域文化に興味のある学生を優先する。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	東アジア地域文化特論		担当教員：赤嶺 守	
博国地 013	科目名 (英語)	Special Lectures on East Asian Culture and Area Studies		E-mail: m.akamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	226	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
<p>本講義は、東アジアにおける国家・政治・文化に関する理解を深めるため、各国・地域が経験してきた国民国家形成および国民国家史の創出に関する比較・検討を行う。本講義は主に中華圏の社会と地域を検討対象とするが、特に台湾や尖閣諸島といった“周縁”的な地域を沖縄との比較の視座から分析することで、周辺からの地域研究とその手法について体得できるようにする。</p>					
2. 到達目標					
<p>東アジアにおける国家・地域の比較研究を通じて、当該地域における国民国家形成の個別性と普遍性についての理解を深める。</p>					
3. 授業の計画と内容					
<p>第1週 インTRODクシヨン 第2週 地域研究とアジア (1)：日本のアジア研究とその歴史・戦前 第3週 地域研究とアジア (2)：日本のアジア研究とその歴史・戦後 第4週 地域研究とアジア (3)：日本におけるアジア研究の新動向 第5週 地域研究としての中国 (1)：中華民国史と国民党による国民国家建設 第6週 地域研究としての中国 (2)：中華人民共和国史と共産党による国民国家建設 第7週 地域研究としての中国 (3)：中華民国史と中華人民共和国史の相克 第8週 地域研究としての台湾 (1)：日本統治時代をめぐる研究とその変容 第9週 地域研究としての台湾 (2)：戦後初期政治研究とイデオロギー 第10週 地域研究としての台湾 (3)：中華民国史と台湾史の相克 第11週 地域研究としての台湾 (4)：創られる国民国家論と政治性 第12週 地域研究としての尖閣諸島 (1)：香港住民と香港史 → 尖閣諸島史 第13週 地域研究としての尖閣諸島 (2)：香港研究と两岸関係 → 尖閣諸島研究 第14週 東アジアにおける国民国家建設論の回顧と展望 第15週 まとめ</p>					
4. テキスト					
<p>若林正文『台湾の政治—「中華民国台湾化」の戦後史』(東京大学出版会、2008年) 久保亨・土田哲夫『現代中国の歴史— 两岸三地百年の歩み』(東京大学出版会、2019年) 村田忠禧『日中領土問題の起源』(花伝社、2013年) 林泉忠『「辺境東アジア」のアイデンティティ・ポリティクス—沖縄・台湾・香港』(明石書店、2005年) その他については授業中に提示する。</p>					
5. 準備学習					
<p>事前にテキスト課題を读了し、ディスカッションに備えられるようにすること。</p>					
6. 成績評価の方法					
<p>活動状況【報告・討論等】(40点)、レポート(30点) プレゼンテーション(30点) 上記を総合して評価する。</p>					
7. 履修の条件					
<p>特になし。</p>					
8. その他					
<p>授業内容は状況に応じて変更の可能性がある。</p>					

科目番号	科目名	東南アジア地域文化特論		担当教員：坪井 祐司	
博国地 014	科目名 (英語)	Special Lectures on Southeast Asian Culture and Area Studies		E-mail:y.tsuboi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	509	火3、木3
1. 授業の概要					
<p>人文・社会科学の研究の方法論の多くは、欧米社会の分析を前提に発展してきたものである。一方で、アジアには寒帯から熱帯までさまざまな地域があり、社会のあり方は必ずしも一様ではない。授業では、アジアで唯一の熱帯地域である東南アジアの社会をさまざまな角度から検討することで、既存の学問の方法論そのものについて再検討する。地域横断的な視野をもって書かれた論文をいくつか選んでテーマを設定し、それをもとに議論を行う。</p>					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアという地域について、多角的に理解を深める。 ・授業における議論を通じて、地域研究の方法論に対する理解を深め、自身の研究に活かす。 					
3. 授業の計画と内容					
第1週	イントロダクション 熱帯の自然環境と地域の形成 (1)				
第2週	我々が認識する「地域」はどのように形成されているのか。「東南アジア」という地域概念が成立した過程とともに、自然環境と地域のかかわりからとらえなおす。				
第3週	熱帯の自然環境と地域の形成 (2) 第2週のつづき 環境と人口動態 (1)				
第4週	東南アジアは人口密度の低い小人口の地域である。東南アジアにおける社会や基層文化から、人間と環境の関係を考える。そして、その後の人口増加のプロセスを通じて、両者の相互作用について学ぶ。				
第5週	環境と人口動態 (2) 第4週のつづき 熱帯における農業 (1)				
第6週	農業は、人間と自然とのかかわりの重要な形態の一つである。東南アジアは稲作圏の一部であるとともに、他地域では栽培できない商品作物の産地でもある。農業のあり方を通じて東南アジア地域を考える。				
第7週	熱帯における農業 (2) 第6週のつづき				
第8週	中間討論 東南アジアにおける村落社会 (1)				
第9週	村落は東南アジア研究における主要なテーマの一つであり、調査研究が数多く出されている。主要な研究成果を整理し、地域の特徴としての村落のあり方を考える。また、近年の都市化による変化についても扱う。				
第10週	東南アジアにおける村落社会 (2) 第9週のつづき 文化・宗教の交流 (1)				
第11週	東南アジアは、海を通じて他地域との交流が盛んであり、東西の文化や宗教が行き交った。東南アジアの混成社会を通じて、多文化が共生するとはどのようなことなのかを考える。				
第12週	文化・宗教の交流 (2) 第11週のつづき 政治と植民地・国民国家 (1)				
第13週	東南アジアは、多くの地域で欧米の植民地統治を経験し、そこからの独立を通じて現在の国家が成立した。地域における植民地化と近代的な国家の形成のプロセスをどうとらえるかについて議論する。				
第14週	政治と植民地・国民国家 (2) 第13週のつづき				
第15週	総合討論				
第16週	まとめ				

4. テキスト
『歴史のなかの熱帯生存圏：温帯パラダイムを超えて（講座 生存基盤論 1）』（2012、京都大学学術出版会） このほかいくつか個別の論文をピックアップする。 【参考文献】 これ以外の参考文献については、授業時に指示する。
5. 準備学習
テキストは事前に配布するので、それを読み、疑問点や論点をまとめてくること。
6. 成績評価の方法
授業における討論への参加（50点）、期末レポート（50点）にて評価する。
7. 履修の条件
8. その他
授業の内容および扱うテキストは、参加者の関心等に応じて変更の可能性がある。

科目番号	科目名	英語教育特論		担当教員：渡慶次 正則	
博国地 016	科目名 (英語)	Special Lectures on English Education		E-mail:m.tokeshi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	512	月の4限、金の4限
1. 授業の概要					
アジア、北米、ヨーロッパの英語教育政策や英語の言語的変種、第2言語習得論、英語教授法などの理解に基づき、日本の英語教育について望ましい方向性をディスカッションを通して探る。					
2. 到達目標					
1) アジア、北米、ヨーロッパの英語教育政策、英語の言語的変種を理解し、日本の英語教育政策を多角的に考えられる。					
2) 第2言語習得論と英語教授法の日本の英語教育政策への影響を理解する。					
3) コミュニケーション能力や小学校英語教育、新大学入試などの現在の日本の英語教育問題を理解し、ビジョンを持つ。					
4) 上の目標の発展として、日本の英語教育への方向性を示唆できる。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 オリエンテーション、英語教育に係る諸論争を探る					
第2週 標準英語とアジア英語 (World Englishes, English as a lingua franca など)					
第3週 英語帝国主義とグローバリゼーション					
第4週 アジアの英語教育政策					
第5週 ヨーロッパと米国の言語参照枠の比較 (CEFR と ACTFL)					
第6週 カナダのイマージョンプログラムと Focus on form					
第7週 日本の英語教育史と英語教育政策					
第8週 英語教授法と授業 (Audio-lingual Method と Communicative Language Teaching など)					
第9週 第2言語習得研究と英語教育					
第10週 新大学入試と英検、TOEFL,GTEC					
第11週 日本人の英語コミュニケーション能力と動機付け研究					
第12週 ICT と英語教育					
第13週 小学校英語教育と臨界期仮説					
第14週 学生の発表とディスカッション					
第15週 学生の発表とディスカッション、レポート提出					
4. テキスト					
参考文献：講義で随時、資料を配布する。					
5. 準備学習					
事前に配布された資料を読み、講義でのディスカッション・トピックを考える。					
参考文献					
Common European Framework of Reference (Council of Europe, 2001)					
ACTFL Proficiency Guidelines (2012)					
Approaches and Methods in Language Teaching (Richards & Rogers (2001)					
The Study of Second Language Acquisition (Ellis, 2008)					
Global Englishes in Asian Context (Murata & Jenkins, 2009)					
6. 成績評価の方法					
学生の発表 30点		レポートの提出 (5,000字程度) 70点		合計 100点	
7. 履修の条件					
基本的に英語で講義するので、英語が堪能な学生が望ましい。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	現代沖縄教育特論		担当教員：嘉納 英明	
博国地 017	科目名 (英語)	Special Lectures on Modern Okinawan Education		E-mail:kano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	510	月曜日 10:30~12:00 火曜日 10:30~12:00
1. 授業の概要					
戦後日本の教育は、社会の成熟とともに、幾多の変遷を遂げてきた。一方、戦後 27 年間、米国の施政権下にあった沖縄の教育は、日本本土とのそれとは異なる歩みをみせた。授業では、特に、沖縄の教育委員会制度や教員養成制度に関わる論点を提示し、沖縄の地域社会における教育諸問題についても理解を深める。なお、昨今の沖縄の教育・福祉をめぐる諸問題（学力問題、平和教育、教科書問題、貧困と格差の問題）についても議論する。					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・戦後沖縄の教育史（教育制度を含む）についての基本的な事項を理解することができる。 ・米国施政権下の沖縄と日本の戦後教育史（教育制度を含む）の比較検討を通して、それぞれの特質を理解することができる。 					
3. 授業の計画と内容					
第 1 週 オリエンテーション、教育に係る諸問題を探る 第 2 週 沖縄教育の概観 第 3 週 戦後教育改革と教育行政制度改革 第 4 週 沖縄の公選制教育委員会制度の成立 第 5 週 教育税制度の創設と運用 第 6 週 沖縄の教員養成制度－沖縄文教・外国語学校の設立－ 第 7 週 学生の発表とディスカッション 第 8 週 米軍基地と子どもの人権 第 9 週 沖縄の教師と復帰運動 第 10 週 学校・教師・地域の連携活動～教育隣組・子ども会～ 第 11 週 沖縄の就学前教育・保育問題 第 12 週 沖縄の学力問題 第 13 週 沖縄の平和教育実践 第 14 週 沖縄の教科書問題 第 15 週 子どもの貧困と格差					
4. テキスト					
参考文献：以下の文献を参照しつつ、授業内容に応じて、適宜、資料を配布します。 嘉納英明著『戦後沖縄教育の軌跡』那覇出版社、1999 年。 嘉納英明著『沖縄の子どもと地域の教育力』エイデル研究所、2015 年。 嘉納英明著『子どもの貧困問題と大学の地域貢献』沖縄タイムス社、2017 年。					
5. 準備学習					
<ul style="list-style-type: none"> ・課題については、事前にまとめ、発表又は提出できるようにする。 					
6. 成績評価の方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業における積極的な姿勢（発言等） 40 点 ・最終レポートの提出 60 点 					
7. 履修の条件					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育に対して関心のある者の受講を歓迎する。 					
8. その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に議論に参加する受講生を歓迎します。 ・受講生の関心に応じて、シラバス内容の変更もあり得ます。その際は、事前に調整します。 					

科目番号	科目名	アジア太平洋国際関係特論		担当教員：高嶺 司	
博国地 018	科目名 (英語)	Special Lectures on International Relations of the Asia-Pacific		E-mail: t.takamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	503	火2限、木5限
1. 授業の概要					
<p>本特論は、急速な経済成長と科学技術力の進歩を基にグローバル社会における存在感を飛躍的に高めているアジア太平洋地域の国際関係を考察する。具体的には、日本、アメリカ、ロシア、中国、韓国、台湾、北朝鮮、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、及びASEAN 諸国などによって形成されるダイナミックかつ複雑なアジア太平洋地域の国際関係について、批判的に分析する。特に、現在この地域において顕著な諸問題（外交、安全保障、通商、人権、民主化、環境破壊、貧困、開発、エネルギー、テロリズム等）の詳細なケーススタディーを通して、その背景と要因を的確に把握するための考察を重ねる。さらに、これらアジア太平洋地域の諸問題を、国際関係理論を応用して科学的な分析を試みることにより、論理的な解決方法を検討することを学ぶ。</p>					
2. 到達目標					
<p>受講生が、アジア太平洋地域の国際情勢を理解し、現代における問題点や課題を的確に把握する能力を身につける。最終的には、社会や政府にとって有益かつ実施可能な政策提言を行えるようになることを目標とする。</p>					
3. 授業の計画と内容					
<p>第1週 国際政治史のなかのアジア太平洋 第2週 分析手段としての国際関係理論 第3週 アジア太平洋国際関係の現状と課題 第4週 日本・沖縄とアジア太平洋 第5週 アメリカとアジア太平洋 第6週 ロシア（旧ソビエト連邦）とアジア太平洋 第7週 中国とアジア太平洋 第8週 台湾とアジア太平洋 第9週 韓国とアジア太平洋 第10週 北朝鮮とアジア太平洋 第11週 オーストラリアとアジア太平洋 第12週 ニュージーランドとアジア太平洋 第13週 カナダとアジア太平洋 第14週 ASEAN 諸国とアジア太平洋 第15週 総括</p>					
4. テキスト					
<p>特にテキストは定めず、必要に応じて参考文献（下記参照）を使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Walter Carlsnaes, Thomas Risse and Beth A. Simmons (eds.), <i>Handbook of International Relations</i>, Los Angeles, London: Sage, 2013. ・John Baylis, Steve Smith and Patricia Owens (eds.), <i>The Globalization of World Politics</i>, Oxford: Oxford University Press, 2011. ・Samuel P. Huntington, <i>The Clash of Civilization: and the Remaking of World Order</i>, York, London: Simon and Schuster Paperbacks, 1996. ・高嶺司『日本の対中国関与外交政策』明石書店, 2016年. ・日本国際政治学会編 『東アジア新秩序への道程』日本国際政治学会（有斐閣）, 2009年. 					
5. 準備学習					
<p>事前に配布する参考文献や講義資料に目を通してから受講することが望ましい。</p>					
6. 成績評価の方法					

授業中の議論・討論への貢献度 (50%)	Essay (小論文) (50%)	合計 100%
7. 履修の条件		
特になし		
8. その他		
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。		